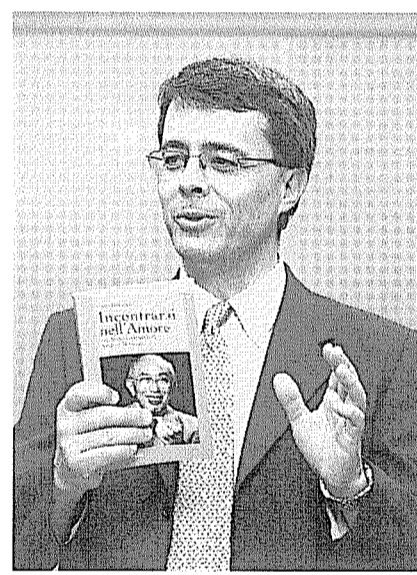


イタリアで庭野開祖の研究書を出版

『愛そのもの』において出会う』 著者 シント・ブスケツト神父に聞く

カトリックの立場から庭野日敬開祖の信仰や活動を研究し、まとめた著書『愛そのもの』において出会う——キリスト者の目で庭野日敬を読む』が9月1日、イタリアで発行された。著者はフォコローレ運動(カトリック在家運動体)のメンバーで、神学博士のシント・ブスケツト神父。9月に本会を訪れた折に、研究の動機や著書を通して伝えたいことを聞いた。

3年までは日本に滞在し、この間、佼成会の方々とたくさんのお会いを頂くとともに、諸宗教者が集まる大会などで開祖さまを拝見する機会に恵まれました。天台宗比叡山延暦寺の山田恵諦座主とご一緒された際のお姿がとても印象に残っています。ヨーロッパで聞いていた通り、やさしさと慈



庭野開祖について研究し、まとめた著書を手にするブスケツト神父

り、法華経の深い宗教体験に基づいて、宇宙のすべてを生かしているものがあるとの真理を確信されていたということ。それは、一人ひとりを賞き、すべての存在に意味を与えるものご経験や思想に触れていました。また、開祖さまとキアラ(フォコローレ運動の創設者・キアラ・ルービック師)が交わした手紙を紹介しながら、その出会いと親交、立正佼成会とフォコローレとの交流について語っています。

宗教、信仰を真に大切にすることによって、深い次元で出会うことができるのだと教えられます。その意味で、本のタイトルは『愛そのもの』において出会う』とさせて頂きました。キリスト教徒にとって自らの信仰を深める一つの動機づけに、さらにキリスト教徒と仏教徒の間に生まれる出会いの場が生まれる一助になればとの願いを込めました。

「一乗」の教えに基づく思想と実践に感銘

研究の動機は？
フォコローレの本部から諸宗教との交流や他宗教に関する学術的な研究を依頼されたのがきっかけです。立正佼成会は私にとって最も親しみのある教団の一つであり、特に尊敬する開祖さまについて研究したいと考え、論文執筆に取り組みました。

振り返れば、1979年、ヨーロッパのフォコローレの青年が集う大会で、高校生だった私は立正佼成会と開祖さまのことを初めて知りました。87年から2000

悲しさそのものを実感しました。研究を通して、新たな発見がありましたか？
佼成会の皆さんは教えを学び、広い心とやさしきで周囲の人々を大切にしようと努められています。地域や社会、世界に役立つ自分でありたいと行動されています。実践を尊ぶ信仰である

り、開祖さまが慈悲と菩薩行を大事にされていたことは以前から存しておりました。研究を進めていく中で、そうしたものの根本には「一乗」の教えがあり、開祖さまが絶対的な真理をお持ちだったからだと知りました。

から、ヨーロッパでは、仏教は相対的なアプローチで世界や人間を考える、言わば相対主義と認識されている面があります。神学者の中には、絶対的な真理がないような理解をされている人もいます。

しかし、研究の中ではっきり見えたのは、開祖さまにとって真理は一つである

ができたと感じています。今回、研究を元に本を出版されましたが、専門家ではなく、一般の方を対象としているため、仏教の世界観や人間観などの説明を加え、開祖さまのご経験や思想に触れていました。また、開祖さまとキアラ(フォコローレ運動の創設者・キアラ・ルービック師)が交わした手紙を紹介しながら、その出会いと親交、立正佼成会とフォコローレとの交流について語っています。

立正佼成会とフォコローレは30年にわたって交流を重ね、共に歩んできました。それは愛の関係と言えらるるでしょう。愛の関係であるならば、遠慮する必要はありません。これまで以上に素直な心で触れ合い、さらに実りある関係を築いていければと思います。そして、多くの人々に希望を与えられる存在になればと願っています。



か恩報恩

1985年11月、本会を訪れたキアラ・ルービック師と法蘭西で対談する庭野開祖

て武装解除を指揮した体験を持ち、

らタリバンを排除できず、政情が不安定化している状態

は、WCRP日本委平和研究所の所員らが、アフガニ

録音テープ 各地の講演から

さんが命がけで華分出して、母体の中の赤ちゃんが、母体の中に入ってきて呼吸するので、

長を返す。さらに、ス

「アフガニスタンの和解の

ある。多様な、寛容性を

持つ。

は、WCRP日本委平和研

究所の所員らが、アフガニ

録音テープ 各地の講演から

さんが命がけで華分出して、母体の中の赤ちゃんが、母体の中に入ってきて呼吸するので、

長を返す。さらに、ス